

大塩平八郎雑感

井上 宏

最近大塩の乱の意義や、大塩平八郎の人間性について感じたことがあるので、二三述べる。

一・明治維新と大塩の乱

今年(明治維新一五〇年)は昨年(大塩の乱一八〇年)は維新の三一年前に起こった大塩の乱は、維新の先駆けであると言われる。島原の乱以来二〇〇年にして、初めて幕府に刃を向け、反抗の切掛けを作ったのだから当然だろう。しかし、維新後の日本の姿は、大塩の目指したものとあまりに違い過ぎる。

吉田松陰の弟子たちが作った「皇国日本」は民が天皇のために死ぬ日本であった。松陰が教えたのは、「三民の首」である「士」が「天日の嗣」のために死ぬことだが、皇国日本では「民」がその役割を担ったのだ。

一方、大塩が目指したのは「万物一体の仁」「修身齊

家治国平天下」。為政者は民の痛みを我が痛みとし、民の平和のため我が身を修めなければならない。孟子曰く「民を貴しと為し、社稷(国)これに次ぎ、君を軽しと為す」(孟子尽心章句下)。

大塩は民のために立った。その挙が先駆けとなり、後に続いた維新が実現した国家を見て、泉下の大塩はどう思っただろうか。

今また、我が国は長州出身者を宰相としていただいている。彼が言う「美しい国」の向かう先はどこだろう。

二・大塩平八郎の人間性

大塩を「思想のみで突き進む人物」「厳しく険しい人間」「独りよがりな激しい性格」とする見方が一般的で、大塩ファンではない私も、実はそう思っていた。

しかし、研究会で勉強する内、大塩の意外な側面を知

ることになった。その内二つばかり記す。

まえなければなるまいな

※梵王宮Ⅱ仏寺。繚綫（るいせつ）Ⅱ罪人として捕らわれること。

五更Ⅱ寅の刻、午前三時から五時頃。（現代語訳は福島先生）

◆漢詩に見る大塩平八郎の人間性

平成二八年七月、帝塚山学院大学・福島理子先生による講演「大塩平八郎の詩心」があり、次のような詩が示された。

私はこの詩に、市井の人に注ぐ大塩の暖かな視線、世評とは異なる寛容さを感じるのだが、如何だろうか。

箕山の楓を尋ぬるに人の其の一枝を誤るあり。山僧

◆大塩平八郎純愛物語

石崎東国著『大塩平八郎傳』（大正九）に次の記述がある。

集まりて之を拘へ面縛す、予其の無知なるものもの妄作して此に陥るを憫み、且つ僧の為す所の慈ならざるを悪む。故に僧に告げて以て其の囚を釈さしめ、戯れに絶句を賦して其の僧に贈る

律嚴法具梵王宮（寺のおきては厳しく、きまりも

いろいろあるのだらう）

赤子猶懲繚綫中（かよわい民すら罰せられ、繩に

かけられるとは）

楓葉谷看不容損（紅葉を見るのは良いが、折つては

ならぬというのなら）

明朝定捕五更風（私は明日、夜明けに吹く風を捕

洗心洞餘瀝云 大塩の家内のことで御座りますか。私が塾に居りました頃におゆうと申ます妾が置いて御座りました。此の人が大そう豪い人で大学を暗記して居られました位で、折節は先生に代て中庸や

史記の講義を致されました。ハイ誰の娘で御座りませうか其事は聞洩しましたが、年は其頃二十歳許りで美人と云ふ程では御座りませんが、流石に確りして居りました。多分此人が後に本妻に為たのだと聞いて居ります。

※餘瀝一杯に残った滴。話し手が自分を謙遜している。

この記述では、「後に本妻となった」とあるが、実はそうではない。与力と水商売の娘との正式な婚姻には制約があったためである。しかし、大塩も周囲も本妻として扱ったことが知れる。ただ、二人の間には子が恵まれなかった。そのため、親戚筋の格之助を養子とした。

この時代、後継ぎが生まれぬ場合、妾を置くのが普通だったのに、大塩はそうしなかった。それだけ深くゆを愛していたに違いない。ゆうは又それにふさわしい人だった。この二人の純愛を軸に大塩の乱を書いてくれる小説家が現れるのを、私は夢想している。

私は古文書好きから生じた出会いと行きがかりから、研究会に入会し、委員を務め、ホームページを作っている。決して大塩ファンという訳ではない。しかし、大塩

の乱は謎が多く、奥が深い。今しばらくは、この謎と付き合っていきたいと思っている。

(いのうえ ひろし・本会会員)

大塩事件研究会のブログ

<http://oosio-jiken-kenkyuu.cocolog-nifty.com/blog/>

■ 大塩事件研究会のブログ
～大塩事件研究会のブログ～

■ 大塩事件研究会

「大塩事件研究会」のブログ。大塩事件に関する最新情報や、大塩事件の真相を追求するための情報発信の場です。大塩事件の歴史や、大塩事件の真相を追求するための情報発信の場です。大塩事件の歴史や、大塩事件の真相を追求するための情報発信の場です。

大塩の乱に関する書籍は、研究会員の個人的ホームページ「大塩の乱資料館」に掲載されていますので、そちらをご覧ください。

大塩の乱に関する書籍は、研究会員の個人的ホームページ「大塩の乱資料館」に掲載されていますので、そちらをご覧ください。

大塩の乱に関する書籍は、研究会員の個人的ホームページ「大塩の乱資料館」に掲載されていますので、そちらをご覧ください。



■ 大塩事件研究会

■ 大塩事件研究会

■ 大塩事件研究会

本会の活動報告のほか、例会や古文書を読む部会の開催日などの行事予定も見ていただくことができます。